

「いただきます」

朝倉 尚美

東本願寺が毎月出している『同朋新聞』の今年の7月号に、「『いただきます』ってなあに？」という記事が載っていました。そこには、「わたしたちは、他の命をうばわずには生きていけないのね…」。だからその生命に対して、「『あなたの命をいただきます』ということなんじゃ」とありました。

一つの例えとして、にわたりの事が載っていました。にわたりが大きくなるためには、いろんないのち、例えばバッタやトカゲ、トウモロコシや野菜等、いろんない生き物の命を食べて生命を生きてきた。私は生きてその鶏の生命の首を切り、足を切り、殺して加工して食品として売っている物を買ってきて食べている。嫌な所は見ないで、「美味しい」と言って食べている。私の中には実は数え切れない程の生命が生きているんやなあ。であるならば、最近感じるんやけど、お斎（法事の時に、お勤めの後に皆で一緒に食べるご飯のこと）の時に施主の方が挨拶をされるが、「粗酒、粗飯ではありますが、時間の許す限り食べていってください」と言う方が多いけど、それはどうなんやろう。折角来てくれた方達にわざわざ選んでまずい物を出すんやろか。そんな訳ないよね。実は施主はね、色々考えて考えて、来てくれた人達に、ここの店の料理を食べてもらおうと思って決めたんやないですか。そしたらもう謙ることは必要ないんやないですか。

考えてみると、店の人にも悪いわね。「ここの店美味しくないんよ」と言っていることやもんね。そして、食べる命にも申し訳ないよね。「あんた不味いけど、これから皆に食べてもらうね」。これ、あかんでしょう。

もうええかげん謙るのはやめよう。何かそれが日本人の美德のように思うかもしれないんだけど、どうやろう。生命そのものに対して申し訳ない気がするけどなあ。

私の当たり前が当たり前でない事に気付くのは面白いです。

最後に、真宗大谷派の食前・食後の言葉を言うので、習慣にしてください。

食前のことば

み光のもと われ今幸いに

この浄き食をうく いただきます

食後のことば

われ今 この浄き食を終わりと

心ゆたかに力身にみつ ごちそうさまでした